平成３０年度第２回社会教育委員会議　会議録

日　時　平成 30 年９月４日(火)
15：00～16：20
場　所　本庁舎２階　入札室

出席委員　山口議長、小林副議長、岩井委員、大澤委員、大橋委員、北岸委員、
佐藤(明)委員、佐藤(天)委員、藤島委員（9 名）
欠席委員　渡辺委員（1 名）
事 務 局　教育委員会：瀬能教育部長
生涯学習課：白川課長、藤原主幹、斉藤主査、田中主査、久保主任主事、
仲世古主事

１　開　会　　生涯学習課長

２　挨　拶
山口社会教育委員会議議長

３　議　事
（１）第四次苫小牧市子どもの読書活動推進計画（案）について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

議　長：ただいまの説明について、質問・ご意見ございますか。

委　員：読書通帳のようなものを作ってはどうでしょうか。小学校などで行っている家庭版のようなもので、親が小さい頃にこんな本を読んだのだなとか、赤ちゃんからどんな本を読んできたのか手元に残しておけるものがあると広がりがでて、より興味が持てるのではないでしょうか。今回でという訳ではないのですが、ゆくゆくは考えていっても良いのかなと思いました。
また、家読（うちどく）をしたいけど時間がないというケースがたくさんあると思うのですが、児童クラブの先生方が読み聞かせ活動をどのようにしていくか考えることでもう少し広がるかなと思います。

事務局：読書通帳について、貴重なご意見をありがとうございます。読書通帳に関して現在行っているものとしては、中央図書館で読書月間にお子様向けに読書

通帳を配布しておりまして、こちらはレシートを貼っていただく手作りのものになっております。それから、児童センターでの読み聞かせですけれども、読書活動を毎日行っているというセンターが４か所、ときどき行っているというセンターが２か所ということで積極的に読み聞かせ活動はしていただいているのかなと思います。

委　員：読書通帳があるのは知らなかったのでとても良いと思います。（先ほどの意見は、）自分の子ども達のためにどんな本をというところで、継続して１年、２年、１０年と行っていくことで本好きな子ども達が生まれるのかなという意味でした。

議　長：道が言っているポイントに、友達同士で行う活動を通じて読書の関心を高めるというものがございました。

委　員：まず、親子。それから友達と広がっていけばよいですね。

委　員：読書通帳を持ってないのですが、読書通帳の使い方は明記されているのでしょうか。書いてあるのかもしれませんがわからなくて。

事務局：図書館で取り組んでいるものは、図書館に足を運んでもらうという意味で大切な取り組みかなと考えております。皆さんからいただいたご意見、小さい頃から本に触ってもらう、親しんでもらうということも大切なことだと考えております。あと、読書通帳の使い方ですけれども、読書通帳は（図書館の）窓口においておりまして、使い方がわからないという場合には図書館の窓口にお越しいただいたりしております。先ほど使い方を簡単に説明しましたが、本にバーコードがついていまして、それを読み取ると、レシートが出てまいりますので、それを記録として保管してもらうような形になっております。

議　長：よろしいですか。そのほかにご意見ございますか。

委　員：計画案の目標指標ですが、平成 34 年度の目標指標の根拠はあるのでしょうか。今までの経過からみて妥当だと思われる数値なのでしょうか。

事務局:委員のご指摘がありましたとおり、25 年度から 29 年度の経過を鑑みまして、34 年度につきましてはこれくらいの目標値が妥当と言うところで設定させていただいております。ただ、読書時間については、現在 34 年度の目標が、小学校 20%というところで設定しておりますが、平成 30 年の数字がすでに 19.2%であったことから、こちらは少し目標値の見直しが必要であると考えております。

委　員：貸し出しも同じような見方でよいですよね。それから、何か道で読書時間について読まないという回答を設定していなかったでしょうか。

事務局：道では第4次計画の中で、読まない割合ではなく、10分以上読書をするということを目標にあげておりまして、毎年の全国学力調査の数字を使っています。道の数字では10分以上読書する目標を70%以上としていますが、本市においては本を読まない人の割合を減らしていこうという形としております。

委　員：読まないという設定を道はしていないということでよいですか。

議　長：社会教育委員会議の第1回で配られた資料にも記載されていましたね。他に何かございますか。

委　員：前回の会議の話題や評価が適宜検証されて盛り込まれていると思います。

委　員：計画は一般市民が読むということですよね。他の都市の計画を読んでみたのですが、最初に計画策定の背景と趣旨が入ってしまうと市民が読みにくいので、2番目の子ども読書活動の意義を最初に持ってきて、2番目に計画策定を持ってきたらどうでしょうか。本当はどのように使われているかというのがわからなくて、太文字で書いているところなどもあってパッと見た感じ、読みにくい。他都市みたいに見やすいゴシック体を使ってはどうか。難しい都市計画などとは違って読書が大切だということを市民に知ってもらうのであれば、もう少し見やすいようにしてはどうでしょうか。

事務局：レイアウトについてはこれから精査して見直していきたいと思いますし、誤字等もございますので直しながらまとめていきたいと思います。子どもの読書活動の意義の順番については、計画は市民の方に見ていただきたいというものですので、検討させていただきたいと思います。

議　長：読書習慣の形成と関心をどう高めるかというのが二つの柱かと思います。その柱の中で、家庭ではどうか、学校ではどうか、地域ではどうかというような流れになるのではないかなと思います。

委　員：ご家庭で見た観点で、何歳の子がいるかによっても違うと思いますが、自分と関係のないことが書いてあるのだなと最初のページを見たときにそう思われない書き方がよいと思う。

事務局：内容的なものもですが、最初に市の計画ですとよく「はじめに」というものも入っておりまして、それを抜かしたところで資料を示させていただいています。今ご意見いただいた順番や、また、字数が多いと読みにくいというところもありますので、圧縮できるのかも含めてもう少し検討させていただきたいなというところです。また、太文字は今回変更になった部分となっておりまして、最終的には太文字ではなくなります。下線は脚注で補足説明する部分でして、字数を少なくするためには入れたいと考えておりますが、いただいたご意見から今一度検討させていただきたいと思います。

議　長：いいですか。その他ございますか。

委　員：続きになってしまうのですが、そもそも、なぜ読書をした方が良いのかというのが市民に伝わっているのでしょうか。「はじめよう！読み聞かせ」というパンフレットで、読書をすることによってこんな子どもになっていくのですよというのがあるのですが、まず始めにこういったことが伝わらないと、なんぼ読書がいいからと言っても伝わらないと思うのですよね。このようなことをホームページなどでもいいですが、市民に伝えていることってありますか。

事務局：こちらのパンフレットですが、ブックスタート事業で、こちらのパンフレットと本２冊などを直接保護者の方に説明をしてお渡ししておりまして、読書の大切さや本に触れる機会の充実につなげていければと考えております。また、それが入口となって図書館に足を運んでいただいたり、図書館でもブックスタート（絵本のとびら事業）の関連事業として体験型のものも一緒に入れながら読み聞かせの大切さであったり読書というものに触れる機会の充実に努めているところです。

委　員：赤ちゃんに対してはわかりましたが、小学生でも中学生でも別に遅くても良いと思うのですよ。スタートだけだとその後が続かないので継続して市民に伝えていかないと切れてしまうと思うのですよね。

議　長：家庭対策ということですか。

委　員：家庭もそうですね。

議　長：習慣づけということをどうするか。市としてはブックスタートと家読と子どもを中心に進めていると思うのですよね。それをさらにということですね。

事務局：議長からも話しがありましたとおり、市では乳幼児を対象にブックスタート

などを始めております。アンケートをとった中では、学年が上がるにつれて本から離れていっており、その理由は正確には解明されておりませんが、習い事や部活などが忙しくなって読書から離れるというところもアンケート結果から出てきております。学校でも朝読書などでそこを強化しておりますが、たぶん第１次から取り組んでいるのですが、どうにか学年が上がっても続けられる中身に改善したいと、第四次でも学校や家庭と連携して粘り強く進めていきたいと考えています。

議　長：他に何かありますか。

委　員：さっきの話ですが、最初にはじめにを入れるのであればそこに意義が入ると思うので、意義については外してもよいかと。文書が重ならなければよいですが。

事務局：「はじめに」に意義を入れれば、先に意義が載るからということでよいでしょうか。わかりました。

委　員：パンフレットなどを先ほど見せていただきましたが素晴らしいものだと思いました。読書の意義なども書いていますよね。全戸配布ではないでしょうし、発行元は様々のようですが、市民にはどのような形で提供しているのでしょうか。

事務局：読み聞かせマップの発行元はＴＲＣ苫小牧グループとなっておりまして、図書館が作っております。こちらは図書館とか施設に置いてありまして、保育園や幼稚園には園児分を配布していると聞いています。うちどくパンフレットも同様に園児分配布しておりまして、毎年４月に追加で配布しております。読み聞かせマップ以外の４種類については先ほどのブックスタート（絵本のとびら事業）で必ずセットにして配布しておりますので、お子様の生まれた方に対してはお配りをしております。他のものに関しましても、公共施設や子育てサークルなど関係のあるところには配布しています。

委　員：素晴らしいことだと思います。

委　員：１次から一生懸命しているのに、現場と情報発信しているところの間でギャップがあって、家庭まで行き届いていない気がします。現実の状況に合わせて、相互の情報がミキシングできるようなことがないのかなと思います。中学生でも興味があれば本を読むのですが、ところで、今電子書籍や漫画が身近なものになっていますが、電子書籍や漫画は読書と言えるのでしょうか。計画は大事だと思いますが、この多様化した中で、子ども達の好奇心を満た

すためにどうしたらよいか考えるのが大切かと思います。

議　長：興味関心を持ってもらうためにどうするかということですね。どのようにサポートしてあげるかという課題だと思います。方法論としては大事ですが、ここでは第四次計画としてどうするかという柱が論点ですので、それを逸脱しないものであれば計画としてはこれでいこうかと思います。

事務局：小さい頃は親からの読み聞かせで、年齢が上がるにつれて自発的にですとか、インターネットの電子書籍などでという話しもありましたけれども、今回国が作った計画でも同じような話が出ております。年齢が上がるにつれて人から紹介されたり、人に勧めたりですとかそういう取組みが大事ではないかと議論されておりまして、今回の第四次にも盛り込ませていただきました。まずは図書館の取組みとして始めていこうと考えておりますが、少しでも読書を好きになってもらえればと思います。電子書籍やインターネットについては、国でも実態を調べていきますと第四次計画でうたわれてまして、次期計画に向けてその辺りが進んでいくと考えているのですが、市の四次計画でそこまで踏み込めるかというところです。

委　員：漫画は読書になりますか。

事務局：一般的にいう漫画は違うと思いますが、図書館に置いているような歴史の漫画などは読書であると考えています。

議　長：興味を持ってもらう手段としての漫画ですかね。

委　員：この間行った読書のアンケートを小中学校では時間的に大変ではなかったのかなと思いました。低学年は時間がかかると思うのですよね。どこかをまとめてとらなくて資料的によいのかなと思いましたがいかがでしょうか。

事務局：アンケートについては各学年１クラスずつ取りまして、指導室に事前に相談して、自宅に持って帰らないのであれば低学年は自分で書けないので、その場で先生が説明しながら書かなければならないため、アンケートの個数は多くしないでくださいということで７問とさせていただきました。

委　員：図書館でするビブリオバトルは何をするのですか。

事務局：自分が紹介したい本について、１人５分で本の概要や魅力を紹介したあと、どの本が一番読みたくなったかを投票で決めるというものになります。5 分間ですので、中身を押さえながら紹介もしなければならないので、読解力が

つくとか、友達が紹介してくれた本として他の子たちの興味も沸くだろうということで、最近全国的に進んでいる取組になります。

委　員：学校ではやらないのですか。

委　員：ビブリオバトルではないのですが、本を紹介するというのは国語の教科指導に入っておりまして、発展的にするということであれば、行っている学校もあると聞いたことがある気がします。

委　員：中学校では朝読書を整然とやっています。読書習慣のある子は家庭でも読みますが、本が嫌いでもそこで定着してくる子がいます。ただ、大人がどんな本を読んでいるのかなど声をかけるなど、そこには調査では把握できない現場の努力があります。ただ、自分自身がこの計画を読むのも大変だなと思うのですよね。この計画も、学校の行事予定のように一枚ものにして渡して、最終的には家庭にはってもらうのを狙っての計画ではないかなと思います。

議　長：よろしいですか。

（２）その他
次回の会議開催予定についての説明

４　閉会